

押家さんと思ふ如何と宣ふ里見承久作中にも
なり照宗公大勢を加勢とある義光公も定めて出張
ありし照宗公も對陣ある時味方の勢谷々伏せき
思ひあふふを責なり戦を定めて中務利あるべし
ゆゑに義政悦び臥して使者を米澤へ遣し照宗公
へ書翰差上るれ照宗公領事王ひ近々出陣を
旨返状よりれを義政大に悦び王さるる用意
せしめて俄に陣立並べ突彼これ大木伐り倒し逆
茂木を引きて米沢の出陣を待てるは事山形へ隠れ
なく義光公召召し伊良子宗牛を召れ義政と照宗

一昧して押家来る由先より倉の戦ひた成沢あるべし急ぎ
彼方に引き道中に力を添へ籠城せしと手勢都合
八百余騎城の四辺柵を掘り後重に守り居り然るに
伊達照宗四五日過ぎて一千余騎を引率し上山へ出陣あ
る義政と軍評定ありし照宗の勢二また分一手は
松原より押出一手は赤松の川を傳く故の後へ回り上山勢
小隊ありて彼方の籠城に伏兵とし山形勢あるを来り
分を討り伏兵一座に起り敵を難止追ひ込めんと
て義政先陣をいとい頃天正八年四月十日澁井沢よ
り後向ん去程に義光公氏家尾張守日規能登守